

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3170200517
法人名	医療法人 厚生会
事業所名	グループホーム 白鳥の里
所在地	鳥取県米子市彦名町1210番地1 (電話) 0859-24-7280

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207
訪問調査日	平成20年10月22日
評価確定日	平成20年12月1日

## 【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	3 人
常勤換算	人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建の 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	米子中海病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

米子市の水鳥公園近くのどかな田園地帯の中に中海病院を母体に介護サービス事業所や介護施設が併設されている中にある平屋建ての、落ち着いた作りのホームである。病院が母体ということもあり、連絡が緊密で医療管理面や衛生管理面において安心感がある。特に地域密着型サービスに移行後、より地域との関わりを大事にし、関わりを持つように職員一丸となり取り組まれておられる。一方、認知症理解の勉強会を続ける努力もされている。ゆったりとした中にも一対一を基本に寄り添うケアを大切に、「入居者一人ひとりが自分の役割・出番を発揮できる場をつくります」「入居者が自分の事は自分で自己決定できるように支援します」「地域の一員として地域活動に参加し、地域住民と交流できるように努めます」と独自の理念を掲げ、「職員一人ひとりが、入居者の『あるがまま』を受け止め、学び、そして共に支え合い、生活を支援する」を基本に日々研鑽されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着サービスを良く理解され、地域といかに関わることに対して改善のあとが伺える。重要事項説明書や契約に関する書類などの見直しについては再度一考していただけたらと思います。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組まれており、外部評価の意味を共有されている。前回外部評価での指摘点に対しても、ミーティング等で報告し、見直し・改善に向けての検討や努力をされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれており、主たる議題は活動報告や情報交換となっている。出席者は利用者、家族、地域代表、地域警察職員、地域包括職員、市役所職員、近隣GH職員と多彩になってきており今後必要とされる地域と一体化したホーム運営に繋がるものと期待している。地域の方からも、災害時の協力についての意見等出るなど有意義な会議になってきている。今後地域を巻き込んだ活動、取り組みに期待したいです。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の方へは毎月手紙や広報誌で日常生活や行事案内等生活の様子を伝えている。薬代、利用の領収書など金銭管理は家族の面会時に管理者が手渡している。家族会、敬老会や面会時には必ず日常生活の報告を行っている。意見等を言い易い雰囲気作りを心掛けておられ、家族の方から面会時や電話等で意見・苦情を伝えいただき、サービスの向上に活かしていている。また、家族会が設けられており、運営推進会議にも家族会代表が参加している。意見箱はあまり利用がない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、公民館行事にも積極的参加している。またホーム前にも「かわら版」を設置するなど地域に向け広報している。小学校幼稚園児との交流、ボランティアの受け入れ、地元の安全パトロールかねての散歩の実施や、本年からホーム独自の「夏祭り」を開催し、地元の方の多くの参加もあり盛況であった。今後地域の独居高齢者の日中集える場となり、地域介護の中心となられることを期待します。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者一人ひとりが自分の役割・出番を発揮できる場をつくれます」「入居者が自分の事は自分で自己決定できるように支援します」「地域の一員として地域活動に参加し、地域住民と交流できるように努めます」と独自の理念を掲げ、「職員一人ひとりが、入居者の『あるがまま』を受け止め、学び、そして共に支え合い、生活を支援する」を基本に日々研鑽されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は施設の各所に掲載されている。職員は採用時の職員教育は勿論、1日1回は理念について申し送り時に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、公民館行事にも積極的に参加している。またホーム前にも「かわら版」を設置するなど地域に向け広報している。小学校幼稚園児との交流、ボランティアの受け入れ、地元の安全パトロールを兼ねての散歩の実施や、本年からホーム独自の「夏祭り」を開催し、地元の方の多くの参加もあり盛況であった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組まれており、外部評価の意味を共有されている。前回外部評価での指摘点に対しても、ミーティング等で報告し、見直し・改善に向けての検討や努力をされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれており、主たる議題は活動報告や情報交換となっている。出席者は利用者、家族、地域代表、地域警察職員、地域包括職員、市役所職員、近隣GH職員と多彩になってきており今後必要とされる地域と一体化したホーム運営に繋がるものと期待している。地域の方からも、災害時の協力についての意見等出るなど有意義な会議になってきている。		今後、運営推進会議等において、市担当者に今後の地域密着事業について理解を深めていただき話し合い、具体的な方向性を出していただきたいと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側と地域包括センターのケアマネとの情報交換は行われている。また法人としては、市町村担当者ととの情報交換や相談が行われ、ホームの運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後より多くの情報交換の場を設けるためにも、市担当者にも運営推進会議等への参加を呼びかけ、交流の場を増やしていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の方へは毎月手紙や広報誌で日常生活や行事案内等生活の様子を伝えている。薬代、利用の領収書など金銭管理は家族の面会時に管理者が手渡している。家族会、敬老会や面会時には必ず日常生活の報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を言い易い雰囲気作りに心掛けておられ、家族の方から面会時や電話等で意見・苦情を伝えいただき、サービスの向上に活かしている。また、家族会が設けられており、運営推進会議にも家族会代表が参加している。意見箱はあまり利用がない。		重要事項説明書等に苦情・相談窓口の連絡先及び担当者名2箇所以上の記載を望みます
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内からの補充で引継ぎも十分になされ利用者へのダメージは殆どなく対応されている。離職を少なくする努力もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の院内基礎研修を始め、GH間の相互研修、認知症の研修など、勤務年数や経験に応じた研修の機会を作っている。職員の希望も聞き、職員も研修に出易い雰囲気作りをされている。また、カンファレンスで研修内容も話し合っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームとの交換研修に参加し、他のホームに行く事と他のホームの職員を受け入れる事業も行われている。また、運営推進会議に他のグループホームの職員も参加していただいて、サービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前の相談に始まり、入所前に見学していただくなどし、利用者と家族に納得していただくように努力されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「よりそう介護」を職員全員が心がけている。生活歴や認知症の状態把握をし、歌が好きな方が歌いだされたときなどは手拍子を打つなどし、あるがままを大事にして本人の能力を生かし支えあう関係づくりに取り組んでいる。入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有し、本人の能力に合わせ、無理じいせず、さりげなく接するよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントで利用者の思い、希望や嗜好等を聞き取り、日常生活の中から、利用者の思いを感じ取り思いの把握に努め、日々のカンファレンスで話し合い、利用者本意に暮らせるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の受け持ち担当制とし、認知症を理解し家族の意見や状態把握、カンファレンスを行っている。評価の見直しを2週間に1回、プランの見直しは3ヶ月に1回行っている。また、状態が変化した時はプラン変更をしている。ケアの継続で褥瘡が治癒した方がおられ、より良い暮らしが維持された。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画3ヶ月1回見直し、2週間に1回はカンファレンスで話し合い、評価が行われている。また介護計画の目標についても個別に進捗度を評価されている。状態が変化した場合には直ぐ検討、見直しを行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院支援や外出時の送迎等、柔軟に対応されている。また、地域の独居高齢者の日中集える場所の提供もされ、地域への声かけも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に入居前に話し合い納得が得られた方は事業所の協力医に医療が受けられる。また、入所前のかかりつけ医を希望される方は希望通り医療が受けられるよう支援している。家族と協力して通院介助の支援を行っている。かかりつけ医と互いに情報交換を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年8月より看取りの指針を作成し、同意書も取られている。職員も看取りの指針について理解し、終末期の対応について話し合いを行なっている。状態の変化があれば、医師の説明を受け、また、家族の気持ちの変化、本人の思いに注意を払う様に対応していくようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	定期的な勉強会やミーティングの時等、折に触れ利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。言葉遣いや言葉かけ等気になる時はその都度注意している。また介護計画にもプライバシーに関わる部分においては注意を払うよう記載されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。夕食後にお酒を飲まれる方、散歩に出かけたい方など入居者本意の意思を尊重しひとり一人のペースを大切にして支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けのできる利用者には手伝っていただいていた。利用者の好みも取り入れる様に考慮したり、畑と一緒に収穫した野菜を使ったりと工夫されている。職員も同じテーブルで食事をし、さりげなく食事介助や食後の口腔ケアの支援をされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。入浴時間も決められているが、入居者の希望を出来るだけ聞き入れて入浴支援されている。入浴介助が必要な方、拒否の利用者には、職員と一緒に入浴するなどの支援が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにあった役割を分担していただいている。(居室・玄関掃除・洗濯物たたみ・調理・干し柿や漬物作り、畑仕事等)また、レクリエーションについてもその方のペースにあったものになっている。嗜好品(タバコ、酒)も利用者の方の希望に合わせている。外出や地域の行事参加等も、利用者と一緒に相談しながら行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援としては、散歩や買物などに出かけられている。帰りに馴染みの喫茶店に立ち寄ることもある。地域の安全パトロールの関係もあり、地域の方の知合いも増え、外出が有意義なものとなってきている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関に鍵を掛けずに職員が利用者の様子を見守りながら支援している。居室もホーム側からは鍵を掛けない。職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防訓練を実施している。今回は夜間を想定した避難訓練を予定している。地域の方の参加も呼びかけを行っている。備蓄については法人として業者と委託契約している。防寒対策も用意がなされている。		今後地域の協力も必要となるので、運営推進会議でも出ているように、早期に地域の方の緊急連絡先、連絡網の構築を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスについては、法人の管理栄養士に献立をチェックしていただいている。食事や水分摂取状況については、チェック表に基づいて一人ひとり毎日チェックされている。栄養補助食品、きな粉、水分を多めに取っていただくなど等工夫しながら、快食・快便心掛け支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔で家庭的な雰囲気となっており、採光もよく快適な空間となっている。共有空間の畳の部屋に掘りごたつもあり、利用者・家族・職員のくつろぎの場として利用されている。また一人になれるスペースも確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や思い出の品などを持ち込まれており、利用者の自宅に近い雰囲気作りがされ、整理整頓され居心地良いようにされている。		